

8月7日から10日、いいたて希望の里学園の5・6年生の希望者14人が学びの旅へ。北海道からふるさとを見つめ、体験を通して北海道の自然や歴史を学びました。

食と農業の魅力や可能性をゲームを通じて楽しく学びました。

クボタアグリフロント

大倉山展望台

円山動物園

栗山キッズとの交流

菅野牧園(栗山町)で菅野義樹さんに出会う

美しい風景の中で牧場ならではの作業体験をしました。

9月24日に活動報告会を開き学びの成果を伝えます。



菅野義樹さん(比叡)に震災以降のできごとやふるさとへの想いを話していただきました。併設のファームレストランでは、ここで育った黒毛和牛の牛肉を味わいました。



美しい風景の中で牧場ならではの作業体験をしました。



木の実や小枝をレイアウトして写真立てを制作。



大倉山展望台



タブレットを使いこなして体験や感動はその場で記録。



栗山キッズとの交流



楽しみにしていた交流の時間。歓迎してくれた「栗山キッズ」に感謝を伝えました。



8月9日の学習会の様子。学生が生徒一人ひとりに寄り添い、実力テストの過去問題に取り組みました。

第4回わんぱく相撲女子全国大会へ村から選手に激励金を交付

8月21日、いいたて希望の里学園6年生の磯山妃龍(きらら)さんら2人の児童が来庁し、「第4回わんぱく相撲女子全国大会新潟しばた大会」に出場することを杉岡村長に報告しました。同大会は、相撲を通じて礼儀や感謝の気持ちを学び、絆を育むことを目的に開催されており、小学4～6年生の女子選手約240人が全国から出場します。週に6日、南相馬市で練習を積む2人は、原町青年会議所管内の選手として出場。予選大会を勝ち上がり、福島ブロック代表として全国大会に進出しました。

いいたて希望の里学園×上智大学 夏休みの交流会

8月7日からの4日間、上智大学の学生がいいたて希望の里学園を訪れ、後期課程の生徒と交流しました。7・8年生は部活動交流、9年生は受験に向けた学習会を通して、たくさんの会話を交わし、交流を深めました。学習会では苦手分野を克服すべく、学生からの優しく丁寧なアドバイスでヒントを探し、一緒に考え、答えを見つけ出していました。最終日の送別会では、学生からの逆サプライズで生徒へお土産が手渡され、さらに毎日勉強を頑張った9年生には表彰状が手渡されました。



全国大会本番は9月24日。家族やふるさとの応援を励みに、これまでの練習の成果を発揮してください。

学童保育でワークショップ 初めての挑戦にワクワク!

8月4日、夏休み中の学童保育で『タッチケア&ハーバルバスサシェづくり』のワークショップが開かれました。企画は一般財団法人飯舘までい文化事業団で、いたわりを持って触れ合うタッチケアやハンドケア、村産ハーブを使った入浴剤づくりに児童が挑戦しました。タッチケアは福島市の佐藤直美さん、バスサシェづくりは村内に事務所を構えるアロマブランド「SHIRUBE」の渡部沙織さんが講師を務めました。児童は新しい体験に瞳を輝かせ、ゆったりとした雰囲気の中で触れ合いや香りづくりを楽しみました。



ヒマラヤ産の岩塩バスソルトと村産ハーブを好みでブレンド。布の袋に入れてサシェ(香り袋)をつくります。